

解 答 例

2025年度 藤女子大学ウェルビーイング学部地域創生学科 推薦入学試験
英語文

問1	広島県と長崎県を拠点とする被ばく者団体の日本被団協は10月11日、核兵器のない世界を実現するための同団体の取り組みが評価されてノーベル平和賞を受賞した。
問2	1974年に、佐藤栄作元首相が核不拡散条約に1970年に署名したことと、彼が提唱した非核三原則が評価されて、ノーベル平和賞が授与された。
問3	Nihon Hidankyo, an atomic bomb survivors group based in Hiroshima and Nagasaki prefectures
問4	1) フリードネス委員長は「日本被団協と他の被ばく者の代表者たちの並外れた努力は、核のタブーを定着させることに大いに貢献してきた」と述べた。「それゆえ、核兵器の使用に対するこのタブーが今、圧力にさらされていることは憂慮すべきことだ」。 2) 広島市と長崎市への原子爆弾投下により、推定で合計21万人の方々が亡くなりました。被爆者の方々が核の脅威を世界に向けて訴え続けてきた取り組みが国際規範として広がり、核兵器は現在に至るまで約80年間使われていない。核のタブーとは、核兵器が二度と使われてはいけないということ。

2025年度 藤女子大学ウェルビーイング学部地域創生学科 推薦入学試験
日本語文

問1 (ア) よぎ (なく) (イ) はいじょ (ウ) とら (われる)

問2 (A) 迷惑 (B) 企業 (C) 党派

問3 当事者という言葉によって「非当事者」の存在が浮かび上がり、当事者以外の人々が課題に対してゆるく関わるのが難しくなってしまう。(63文字)

問4 ②⑤ (完全解答)

問5 私は被害状況をインターネットで調べて課題を考えることで「共事者」になることができる。これにより、被災地に関心を持ちながら災害に備えることができる一方で、いま大変な状況にある人たちを直接助けることにはならない。(104文字)

2025年度 藤女子大学ウェルビーイング学部地域創生学科 推薦入学試験
小論文

日常生活の課題

< 出題の意図 >

出題文は、受験者自身がこれまで得た一般的な知識と経験の中で生活をどのように捉えているか、それが地域の創生にどう結びつくと考えているかを、本学科が提供する学びと関連付けて自分の言葉で表現する力を問うた。